

会 議 録

1. 会議名	新下水道ビジョン(財政収支試算)の中間見直しについて
2. 開催日	令和8年2月12日(木)
3. 出席者	市長、副市長、小西市長公室長、阪上企画財政部長、田家総務部長 的場企画財政部副部長、森田総務部副部長 担当部局：酒本上下水道事業管理者、北野上下水道局長、塩川副局長、 宮定下水道技術監、津田下水道課長

4. 会議の目的	新下水道ビジョン(財政収支試算)の中間見直しの方針を協議
5. 補足説明(現状、課題など)	現行の新下水道ビジョンの計画期間は令和2年度から令和11年度の10年間となっており、策定から5年を経過したため、これまでの実績と今後の見通しの中間見直しを行う必要がある。主に見直しを行う項目は、財政収支計画や目標指標となる。
6. 担当部の方向性	財政収支計画は、人件費(昇給動向)や企業債の利率を見直し、現状の現金残高を維持しながら、企業債借入でバランスをとる方針としたい。 また、目標指標は、公共汚水ますのつまりの対応を事後対応とすることや、企業債の借入は資本的収支不足額と現金預金のバランスを見ながら進める方針としたい。
7. 質疑・意見等	質問：財政収支計画における令和7年度の費用は決算見込みとしないのはなぜか。 回答：計画の見直し作業時期が令和7年11月であり、決算額が確定していないため、令和7年度予算額を採用している。 質問：経費回収率向上のためのロードマップについて、ビジョンの見直しや下水道使用料の検討の時期が不整合となっている。令和6年度にするべき見直しが令和7年度に先送りになったということか。 回答：作業開始時期を記載している。 ご指摘のとおり、分かりづらいため見直し後の運用開始年度を記載するよう修正する。 質問：目標指標における企業債残高の縮減率は、「使用料が伸びない、過度な地方債発行をするべきではない」という理由でバランスをとっていることを示す指標ではないか。また、目標達成により削除してしまうと、青天井になったり、またはキャッシュで実施していくという印象になる恐れがある。 回答：縮減率は、目標を達成したことから削除する方針であった。 しかし、ご指摘の部分は理解できるため、収支不足と現金預金のバランスをみながら、適切な企業債の借入を実施することを明記する。 意見：目標指標は、指標を削除すると目標を持たないような印象になるため、表現を見直してください。

8. 結論

修正の意見があった目標指標（公共汚水ますのつまり件数、企業債残高の職減率）や経費回収率向上のためのロードマップは、速やかに修正し、改めて決裁で意思決定を諮る。